

研究拠点形成事業 平成24年度 実施計画書

B. アジア・アフリカ学術基盤形成型

1. 拠点機関

日本側拠点機関：	産業医科大学
(ベトナム) 拠点機関：	国立職業環境保健研究所
(モンゴル) 拠点機関：	モンゴル健康医科大学
(タイ) 拠点機関	コンケン大学
(マレーシア) 拠点機関	国連大学グローバルヘルス研究所
(韓国) 拠点機関：	労働安全衛生研究所

2. 研究交流課題名

(和文)：アジアにおける石綿関連疾患の実態解明

(交流分野： 保健医療)

(英文)：Situational Analysis of Asbestos-related Diseases in Asia

(交流分野： Health and Medicine)

研究交流課題に係るホームページ：http://

3. 採用期間

平成 24年4月1日 ～ 平成27年3月31日

(1 年度目)

4. 実施体制

日本側実施組織

拠点機関：産業医科大学

実施組織代表者(所属部局・職・氏名)：産業医科大学・学長・河野 公俊

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：産業生態科学研究所・教授・高橋 謙

協力機関：労働者健康福祉機構岡山労災病院、広島大学大学院

事務組織：学校法人 産業医科大学 大学事務部 研究支援課課長(宮脇 庄司)

学校法人 産業医科大学 大学事務部 研究支援課係長(中村 洋子)

相手国側実施組織(拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国名：ベトナム

拠点機関：(英文) National Institute of Occupational and Environmental Health

(和文) 国立職業環境保健研究所

コーディネーター (所属部局・職・氏名) : (英文) Director・NGUYEN Duy Bao

協力機関 : (英文) Hanoi Medical University

(和文) ハノイ医科大学

(2) 国名 : モンゴル

拠点機関 : (英文) Health Sciences University of Mongolia

(和文) モンゴル健康医科大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名) : (英文) Head of Department・ERDENECHIMEG
Erdenebayar

(3) 国名 : タイ

拠点機関 : (英文) Khon Kaen University

(和文) コンケン大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名) : (英文) Associate Professor・NAESINEE Chaiear

(4) 国名 : マレーシア

拠点機関 : (英文) United Nations University-International Institute for Global Health

(和文) 国連大学グローバルヘルス研究所

コーディネーター (所属部局・職・氏名) : (英文) Professor・SYED Mohamed Aljunid

(5) 国名 : 韓国

拠点機関 : (英文) Occupational Safety and Health Research Institute (KOSHA)

(和文) 労働安全衛生研究所

コーディネーター (所属部局・職・氏名) (英文) Director-General・SEONG-KYU Kang

協力機関① : (英文) Pusan National University

(和文) 国立釜山大学校

協力機関② : (英文) Kosin University

(和文) 高神大学校

5. 全期間を通じた研究交流目標

アジアは 21 世紀に入って以降、アスベスト（以下、石綿）消費量が全世界の三分の二を占めるに至り、石綿使用の中心地帯となったが、域内では日韓等先進国と新興・途上国の間に状況格差がある。日本は 05 年のクボタショックの際、健康被害の懸念の拡がりを受け石綿使用を全面禁止、韓国もやや遅れて日本に似る歩みをたどってきた。他方、アジアの新興・途上国は急速な経済発展に伴い、入手しやすく安価な工業原料である石綿に今なお依存し続けているため将来の潜在患者を多く抱えている。世界保健機関 WHO は 09 年、「石綿関連疾患」の定義を拡大し、従来の悪性中皮腫（以下、中皮腫）・肺がん・石綿肺症に加え、喉頭がん・卵巣がん・消化器系がんも石綿曝露と関連する可能性を強調した。しかし、中皮腫を除き「石綿関連」とする科学的根拠にコンセンサスはなく、その実態解明は進んでいない。既に 06 年に WHO は国際労働機関 ILO と共に石綿関連疾患の根絶とそのため国際協力の必要性を宣言しており、今後石綿関連疾患の中心となる地帯において正確で精緻な実態把握を進めるべき機運が高まっている。石綿関連疾患は曝露から疾病発生まで数十年を要する（つまり潜伏期間が長い）ため、流行の異なる段階にある複数の国が経験や技術の共有を図りながら共同研究を推進するメリットがある。特に日本は過去の石綿依存の実態を反映し、累積の中皮腫患者数が既に世界 3 位に達している上、今後の大幅増加も科学的に予測され、先導すべき役割を負っている。またアジアの新興・途上国は日本から数年～数十年遅れで石綿依存を強めてきたため、一部で中皮腫が診断され始めるなど、近い将来想定される流行の兆しが見える。そこで本交流では先行事業で構築済みの学術基盤を発展させる形で、日韓が連携し、石綿関連疾患対策に着手しているアジアの新興・途上国で石綿関連疾患の診断・報告・登録の各技術精度を高めながらの精緻な石綿関連疾患の実態解明を目標とする。アジアでの国際研究交流を通じて、最終目標となる世界での石綿関連疾患の根絶に向けた貢献を果たす。

6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

該当しない

7. 平成 24 年度研究交流目標

「研究協力体制の構築」国内協力機関・日本側参加研究者との協議を通じ全期間中の国際セミナーおよび疫学研究交流の詳細な計画立案を経て、今年度 11 月に国際セミナーを開催、同セミナーにおいて全参加研究者を交えた協議を通じ研究協力体制を構築する。国際セミナーは、韓国において第 5 回国際セミナー(AAI-5)として韓国側拠点機関・協力機関と共同開催する。そこで石綿関連疾患の実態解明を目的とする疫学研究を実施する国・フィールド・役割分担を含む詳細計画を確定する。

「学術的観点」第 5 回国際セミナー (AAI-5) を韓国において韓国と共同開催することにより国別の石綿関連疾患の実態に係るレポートを収集する。不足する情報やデータについて

はメール連絡により補う。その成果をウェブ上に公開する。

「若手研究者育成」拠点機関および協力機関の院生を含む若手研究者に AAI-5 へ参加させる。そこで石綿関連疾患のグローバルまたはリージョナルの実態に係る疫学的研究課題を与え、筆頭または分担研究者としての役割を決定した上で学术论文の執筆を開始させる。

「その他」AAI の活動継続につき世界保健機関 WHO・国連環境計画 UNEP の関連プログラムと摺合せ、国際機関のプログラムの中に AAI を位置づける。

8. 平成24年度研究交流計画状況

8-1 共同研究

—研究課題ごとに作成してください。—

整理番号	R-1	研究開始年度	平成24年度	研究終了年度	平成26年度
研究課題名	(和文) アジアにおける石綿関連疾患の実態解明 (1) (英文) Situational Analysis of Asbestos-related Diseases in Asia (1)				
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 高橋 謙・産業医科大学・教授 (英文) Takahashi Ken・University of Occupational and Environmental Health, Japan・Professor				
相手国側代表者 氏名・所属・職	(英文) Nguyen Duy Bao・National Institute of Occupational and Environmental Health・Director				
交流予定人数 (※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入のこと。)	① 相手国との交流				
	派遣先 派遣元	日本 <人/人日>	ベトナム <人/人日>	<人/人日>	計 <人/人日>
	日本 <人/人日>		4/16		4/16
	ベトナム <人/人日>	(5/25)			(5/25)
	<人/人日>				
	合計 <人/人日>	(5/25)	4/16		4/16 (5/25)
	② 国内での交流 0人/0人日				
日本側参加者数					
4名	(12-1 日本側参加研究者リストを参照)				
(ベトナム) 側参加者数					
5名	(12-2 相手国(ベトナム)側参加研究者リストを参照)				

<p>24年度の 研究交流活動 計画</p>	<p>日本政府（厚生労働省）が出資し世界保健機関 WHO が運用中のベトナム安全衛生プロジェクトのうち石綿関連疾患に係る取り組みと共同して、同国における中皮腫をはじめとする石綿関連疾患の記述および分析疫学研究遂行のため、詳細計画立案後、データ収集・検証、解析にとりかかる。韓国で11月に開催予定の国際セミナー（AAI-5）の途上国側中心メンバーとしてベトナムの若手研究者を含めベトナムから拠点機関関係者および研究協力者を招聘する（韓国側予算で招聘する者と相互補完する）。ベトナムでの現時点における石綿関連疾患のプロファイルに係る報告および計画中の中皮腫をはじめとする石綿関連疾患の記述および分析疫学研究の進捗状況についての報告を行ってもらい、同情報を同国の石綿関連疾患プロファイルとして AAI 専用ホームページ(HP)上に公開する。</p>
<p>24年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果</p>	<p>石綿関連疾患とその原因となる石綿使用の実態に関するデータ収集と解析を経て、ベトナム国としての国段階プロファイルにまとめ、ステータス・レポートとして AAI 専用 HP 上に公開する。同内容についてベトナム関係者との協議を経て同意が得られれば共同的に報告書および論文またはそのいずれかにまとめ、出版する。ベトナムの主要病院において報告および診断された悪性中皮腫（石綿指標疾患）の情報収集を経て、症例報告および論文またはそのいずれかについて石綿曝露との関連を評価し、記述疫学研究報告の執筆にとりかかる。</p>

整理番号	R-2	研究開始年度	平成 24 年度	研究終了年度	平成 26 年度
研究課題名	(和文) アジアにおける石綿関連疾患の実態解明 (2)				
	(英文) Situational Analysis of Asbestos-related Diseases in Asia (2)				
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 高橋 謙・産業医科大学・教授				
	(英文) Takahashi Ken・University of Occupational and Environmental Health, Japan・Professor				
相手国側代表者 氏名・所属・職	(英文) Seong-Kyu Kang Occupational Safety and Health Research Institute・Director-General				
交流予定人数 (※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入のこと。)	① 相手国との交流				
	派遣先 派遣元	日本 〈人／人日〉	韓国 〈人／人日〉	第3国(フィリピン) 〈人／人日〉	計 〈人／人日〉
	日本 〈人／人日〉			2/8	2/8
	韓国 〈人／人日〉			3/12	3/12
	第3国(フィリピン) (日本側参加研究者) 〈人／人日〉	3/12			3/12
	合計 〈人／人日〉	3/12		5/20	8/32
	② 国内での交流 0/0 人／人日				
日本側参加者数					
5 名	(12-1 日本側参加研究者リストを参照)				
(韓国) 側参加者数					
3 名	(12-2 相手国(韓国) 側参加研究者リストを参照)				

<p>24年度の 研究交流活動 計画</p>	<p>フィリピンは事業申請時点では研究交流相手国として想定していなかったが、申請後に JICA 国際研修コースに参加したフィリピン国出身研修員を通じ同国での石綿関連疾患に対する取り組みが本格化したことが明らかとなったため、本事業に参加してもらう意義が明らかとなり実現可能性が浮上した。初年度はフィリピン関係者を日本側参加者に含めるが、今年度の進展状況によっては韓国で11月に開催予定の国際セミナー(AAI-5)で、フィリピンでの現時点における石綿関連疾患のプロファイルに係る報告を行ってもらう。これを同国の初期プロファイル情報としてまとめ、石綿関連疾患の実態把握のための記述および分析疫学研究の基盤とし、同研究遂行のため、研究主導役である日本と韓国の拠点機関研究者をフィリピンに派遣、フィリピンを含む3か国間での役割分担を行い、詳細な研究計画と手順(質問票設計やフィールド選定)を確定、次年度から疫学データの収集を開始する体制を整える。</p>
<p>24年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果</p>	<p>セミナー開催時点におけるフィリピン国の石綿関連疾患のプロファイルが明らかとなるため、ステータス・レポートとしてAAI専用HP上に公開する。フィリピン国での悪性中皮腫をはじめとする石綿関連疾患の実態に係る記述および疫学研究が日韓フィリピンの3か国共同研究として開始され、基本的な疫学データを収集するための質問票設計やフィールドが確保される。なお、本事業の2年目計画からフィリピン国を研究交流相手国に含め、相手国拠点機関として追加予定である。</p>

8-2 セミナー

—実施するセミナーごとに作成してください。—

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業 「第5回 アジア・アスベスト・イニシアティブ」 (英文) JSPS AA Science Platform Program “ the 5 th Asian Asbestos Initiative(AAI-5)“
開催期間	平成24年 11月 日 ~ 平成24年 11月 日 (3日間)
開催地(国名、都市名、 会場名)	(和文) 韓国 (開催都市未定) (英文) Korea
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 高橋謙 産業医科大学教授 小川尚 産業医科大学客員教授 (英文) Takahashi Ken・University of Occupational and Environmental Health (UOEH)・Professor; Ogawa Hisashi・ UOEH・Visiting Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文) Dong-Mug Kang・Pusan National University・Professor

参加者数

派遣先 派遣元	セミナー開催国 (韓国)	
日本 〈人/人日〉	A.	14/56
	B.	
	C.	3/12
ベトナム 〈人/人日〉	A.	5/20
	B.	
	C.	2/8
モンゴル 〈人/人日〉	A.	2/8
	B.	
	C.	3/12
タイ 〈人/人日〉	A.	2/8
	B.	
	C.	1/4
マレーシア 〈人/人日〉	A.	2/8
	B.	

	C.	
韓国 〈人／人日〉	A.	
	B.	
	C.	7/28
フィリピン (日本側) 〈人／人日〉	A.	3/12
	B.	
	C.	
合計 〈人／人日〉	A.	28/112
	B.	
	C.	16/64

A. セミナー経費から旅費を負担

B. 共同研究・研究者交流から旅費を負担

C. 本事業経費から旅費を負担しない（参加研究者リストに記載されていない研究者は集計しないでください。）

<p>セミナー開催の目的</p>	<p><u>アジアにおける石綿関連疾患の実態解明を最終目標とする研究交流基盤の構築を目的として初年度セミナーを開催する。</u>日本側研究参加者全員の他、各国の拠点機関代表者と研究協力者、および可能な限り若手研究者をコア参加者として、韓国側拠点機関・協力機関と共同して韓国において11月に開催する（<u>先行事業から通算してAAI-5となる</u>）。アジアでの石綿関連疾患の実態解明に向けた基盤上での研究交流の目標共有および意思統一を行い、研究交流計画(全期間・年別)を日韓主導で立案、各国別・研究者別の目標と役割分担を確認する。合わせて石綿分析・石綿疾患診断治療の技術に係る国段階アセスメントを行い、国別ニーズを明らかにする。</p>
------------------	---

期待される成果	<p>全拠点機関の関係者を含むアジア各国の研究者がセミナーに参加、報告討議を進めることでアジア域内の石綿関連疾患の実態解明に向けた研究交流基盤の体制が構築される。各国における国段階プロフィールが明らかとなりステータス・レポートが収集される結果、了解を得られた国のレポートについて AAI 専用 HP 上で公開する。情報の質・量が十分に協力体制が整っているレポートについては論文化を目指す。日韓主導の下、各国における調査研究上の優先課題、技術ニーズやシーズが明らかとなる。疫学研究実施対象国が確定し、フィールドの選定、役割分担、適用ツール（調査質問票、診断報告技術）が選定または独自開発される。特定の国で調査研究の一部がスタートする。</p>	
セミナーの運営組織	<p>日本側責任体制、氏名：①高橋謙, ②小川尚 職種：①教授兼国際センター長, ②客員教授 所属：産業医科大学 韓国側責任体制、氏名：Dong-Mug Kang 職種：教授 所属：韓国釜山大学校</p>	
開催経費 分担内容 と概算額	日本側	<p>内容 旅費・備品・消耗品・その他経費 金額 2,445,000 円</p>
	(韓国) 側	<p>内容 セミナー開催費用（会場費、懇親会費等、開催に関する費用）韓国側独自招待者費用</p>
	() 側	<p>内容</p>

8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

① 相手国との交流

派遣先 派遣元	日本 〈人/人日〉	アメリカ 〈人/人日〉	韓国 〈人/人日〉	計 〈人/人日〉
日本 〈人/人日〉		2/10	2/6	2/16
アメリカ 〈人/人日〉				
韓国 〈人/人日〉				
合計 〈人/人日〉		2/10	2/6	2/16

② 国内での交流 4/12 人日

所属・職名 派遣者名	派遣・受入先 (国・都市・機関)	派遣時期	用務・目的等
産業医科大学 教授兼国際セ ンター長, 高橋 謙	米国 ニューヨーク マウント・サイナイ医 科大学	4月25日～ 29日	前世紀の中頃から米国で逸早く石綿曝 露労働者の長期疫学調査を開始したマ ウント・サイナイ医科大学において、そ の研究をリードしている研究者と「アジ ア・アスベスト・イニシアチブ」の進捗 および北米の石綿事情に関する意見交 換を行い今後の研究計画の方向性に反 映させる。
産業医科大学 客員教授 小川 尚	米国 ニューヨーク マウント・サイナイ医 科大学	4月25日～ 29日	高橋と同一用務・目的。特に国際機関の 立場から見た世界の石綿事情に関する 意見交換を行い今後の研究の役割分担 に反映させる。
産業医科大学 客員教授 小川 尚	産業医科大学	4月9日～ 10日	韓国で11月に開催予定の第5回国際セ ミナー（AAI-5）について、韓国側の準 備状況、日本側の協力の方法、WHO等 国際機関の関与の仕方について情報・意 見交換と計画立案を行う。
産業医科大学 教授兼国際セ ンター長, 高橋 謙	韓国	時期未定	第5回国際セミナー（AAI-5）が日韓共 同開催となり、第6回以降の開催方法・ 場所・役割分担について韓国側と相談す る。

産業医科大学 客員教授 小川 尚	韓国	時期未定	第 5 回国際セミナー (AAI-5) が日韓共同開催となり、第 6 回以降の開催方法・場所・役割分担について韓国側と相談する。
産業医科大学 教授兼国際センター長, 高橋 謙	神戸	時期未定	神戸に拠点をおく WHO 等の国際機関に向き国際機関の関連プログラムと本事業を摺合せる可能性について相談する。
産業医科大学 客員教授 小川 尚	神戸	時期未定	神戸に拠点をおく WHO 等の国際機関に向き国際機関の関連プログラムと本事業を摺合せる可能性について相談する。
全国労働安全衛生センター 事務局長 古谷 杉郎	産業医科大学	時期未定	第 5 回国際セミナー (AAI-5) を含む全国国際セミナー (AAI-6, AAI-7) における NGO の位置づけ・役割分担につき、拠点機関と相談する。

9. 平成24年度研究交流計画総人数・人日数

9-1 相手国との交流計画

派遣先 派遣元	日本 〈人/人日〉	ベトナム 〈人/人日〉	モンゴル 〈人/人日〉	タイ 〈人/人日〉	マレーシア 〈人/人日〉	韓国 〈人/人日〉	アメリカ 〈人/人日〉	第3国 (フィリピン) 〈人/人日〉	合計
日本 〈人/人日〉		4/16				16/62 (3/12)	2/10	2/8	24/96 (3/12)
ベトナム 〈人/人日〉	(5/25)					5/20 (2/8)			5/20 (7/33)
モンゴル 〈人/人日〉						2/8 (3/12)			2/8 (3/12)
タイ 〈人/人日〉						2/8 (1/4)			2/8 (1/4)
マレーシア 〈人/人日〉						2/8			2/8
韓国 〈人/人日〉								3/12	3/12
アメリカ 〈人/人日〉									
第3国(フィリピン) 〈人/人日〉	3/12					3/12			6/24
合計 〈人/人日〉	3/12 (5/25)	4/16				30/118 (9/36)	2/10	5/20	44/176 (14/61)

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。(合計欄は()をのぞいた人数・日数としてください。)

9-2 国内での交流計画

4 / 12 〈人/人日〉

10. 平成24年度経費使用見込み額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	600,000	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	4,700,000	
	謝金	0	
	備品・消耗品購入費	235,000	
	その他経費	550,000	
	外国旅費・謝金等に係る消費税	235,000	
	計	6,320,000	研究交流経費配分額以内であること
委託手数料		632,000	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。
合計		6,952,000	

11. 四半期毎の経費使用見込み額及び交流計画

	経費使用見込み額 (円)	交流計画人数<人/人日>
第1四半期	1,335,000	4/14
第2四半期	1,050,000	6/24 (5/25)
第3四半期	2,995,000	33/130 (9/36)
第4四半期	940,000	5/20
合計	6,320,000	48/188 (14/61)